

令和6年度（2024年度）事業報告書

I. 経営理念等

経営理念

私たちは、地域に信頼されるべき存在であり続けます



公式ホームページ

行動指針

「気持ちをかたちに」 ～こころづかいを地域のみなさまに～
～思いやりを地域のみなさまに～

行動方針

スタッフひとりひとりが「新たな目標」に向かい、チャレンジしていきます

採用方針

わたしたちと一緒に“鈴鹿グリーンホーム”をレベルアップしてくれる人

育成方針

「まなぶ風土」の醸成と「互いに努力を認め合える文化」の構築により「働きがいのある魅力的な職場」の形成と「豊かな人材」の育成を図ります

「みえ働きやすい介護職場取組宣言」目標（兼 衛生委員会目標）

働き方を改善して、仕事と家庭の両立を図る

中期経営計画ビジョン 〈 2023.4-2026.3 〉

革新と創造 – Innovation & Creation

- 1 将来に向けて「人的パワー」を蓄える
- 2 働きやすさと働きがいの向上
- 3 「人」と「デジタルトランスフォーメーション(DX)(※)」が完全調和した介護福祉サービスの提供：超高齢化社会への対応、介護福祉サービスの質向上
- 4 地域が必要とする福祉サービスの創設：地域共生社会の実現に向けて

令和6年度（2024年度）事業計画目標

– 鈴鹿福祉会 Quality(質) の実現に向けて –

現下及び今後の社会情勢・社会課題を踏まえ、常に時代に応じた「当たり前」を目指す

※) DX (デジタルトランスフォーメーション)：環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、介護サービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、風土を変革すること
(参考：「DX推進指標」における「DX」の定義（経済産業省）)

II. 社会福祉事業・介護保険事業等

1. 鈴鹿グリーンホーム拠点

(1) 鈴鹿市深溝町字北林 2956 番地

①特別養護老人ホーム鈴鹿グリーンホーム（介護老人福祉施設）

定員 80 床、ユニット型（※）・全室個室

②ショートステイ鈴鹿グリーンホーム（併設型短期入所生活介護・共生型短期入所）

定員 10 床、ユニット型・全室個室

③デイサービスセンター鈴鹿グリーンホーム（通所介護・総合事業・共生型生活介護・市受託事業）

定員 70 名

④太陽光発電・売電事業（収益事業）

(2) 鈴鹿市岸田町字六名 1547 番地 73

①ショートステイ鈴鹿グリーンホーム翠風（単独型短期入所生活介護）

定員 20 床、ユニット型・全室個室

②鈴鹿グリーンホーム居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）

2. 悠々拠点

(1) 鈴鹿市伊船町 2943 番地 4

グループホーム悠々（認知症対応型共同生活介護）

全室個室 定員 9 床、ユニット型・全室個室

(2) 鈴鹿市伊船町 2229 番地 9

デイサービス悠々（地域密着型通所介護・総合事業）

定員 18 名

※）ユニット型：10 人程度を 1 ユニット（生活単位）として、家庭的な居住環境のもとで、顔なじみのスタッフにより、ご入居者お一人おひとりの個性と生活リズムを把握したケアと、ご入居者同士が相互に社会的関係を築くことを支援するケアを受けることができます

Ⅲ. 運営体制（ガバナンス）

会議等	実績（数値評価）
(1)評議員会	4 回開催（予定： 3 回）
(2)理事会	8 回開催（予定： 3 回）
(3)監事監査	1 回実施（予定： 1 回）
(4)苦情解決第三者委員	全数報告（予定：全数報告）
(5)外部会計監査	12 回実施（予定：12 回）
(6)内部経理・予算監査	1 回実施（予定： 1 回）
(7)評議員選任・解任委員会	開催なし（予定：開催なし）
(8)①運営推進会議（グループホーム悠々）	6 回開催（予定： 6 回）
(8)②運営推進会議（デイサービス悠々）	2 回開催（予定： 2 回）
(9)幹部会議	12 回開催（予定：12 回）
(10)月例会	12 回開催（予定：12 回）
(11)業務改善会議（ユニットリーダー会議）	12 回開催（予定：12 回）
(12)ユニット会議	12 回開催（予定：12 回）
(13)デイサービス会議	12 回開催（予定：12 回）
(14)デイサービス悠々会議	12 回開催（予定：12 回）
(15)居宅介護支援会議	51 回開催（予定：51 回）

IV-1 法人

1. 事業計画（重点項目）に対する評価

項目	実績（数値評価）	
(1)介護人材の確保、定着、育成	<ul style="list-style-type: none"> ✓採用率：12.1% > 離職率：11.4% ✓研修受講数：延べ 1,125 名（計 135 本）（「V-2 その他 1. 研修受講」に詳細を掲載） ✓取組動画公開：8 本（家族懇談会での報告をホームページに掲載） 	
(2)ICT（情報通信機器）、介護ロボット等のテクノロジー活用	<ul style="list-style-type: none"> ✓ICT：22 機種 ✓介護ロボット：11 機種 112 台 ✓介護機器：14 機種 	
<p>(3)グローバル介護人材等の雇用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクノロジー（ICT・介護ロボット・データ・科学的介護情報システム(LIFE)等）活用 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル介護人材雇用のさらなる推進 ・高齢者雇用のさらなる推進 ・外部と積極的につながる（オンラインも活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓「厚生労働省「令和 6 年度介護職員の働きやすい職場環境づくり 厚生労働大臣表彰」奨励賞受賞（特別養護老人ホーム）」 ✓「令和 6 年度三重県介護現場業務改善モデル事業所」選定（ショートステイ翠風） ✓【再計】介護テクノロジー <ul style="list-style-type: none"> ・ICT：22 機種 ・介護ロボット：11 機種 112 台（1 機種・9 台増） ・介護機器：14 機種 ✓科学的介護情報システム（LIFE）：4 事業所で取組継続（特養、グループホーム、デイサービスセンター、デイサービス悠々） ✓グローバル介護人材雇用割合：8%(11 名) ✓高齢者雇用割合：17%(24 名) ✓外部との連携数：（「V-2. その他 2. 外部との連携等」に詳細を掲載） 	
(4)健康寿命延伸	<ul style="list-style-type: none"> ・予防と重度化防止の双方に重点を置く 	<ul style="list-style-type: none"> ✓鈴鹿市介護予防普及啓発事業：延べ 1,182 名参加
(5)事業継続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・通所系サービスの稼働率改善（新たな加算算定への対応を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ✓デイサービスセンター：21%増（R6.3⇒R7.3）

<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度改正・報酬改定に柔軟かつスピーディに対応 ・非常時、災害時に強い組織づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デイサービス悠々： 51%増 (R6.3⇒R7.3) ✓ 加算新規算定数：13 ✓ 全国老協 DWAT 参画人数：1名 (被災施設への介護業務支援)
(6)その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 三重県・鈴鹿市社会福祉法人指導監査受審 ✓ 外国人技能実習機構実地検査 ✓ 地域における公益的事業 <ul style="list-style-type: none"> ・車いす等の無料貸し出し 車いす：288日 ポータブルトイレ：38日 シャワーチェア：7日 ・見守りサポーター事業等についてすべて継続実施

2. 事業運営に係る目標値に対する評価

項目	実績 (数値評価)
(1)介護保険事業 (延べ利用者数) 64,300 名	✓ 延べ 58,652 名
(2)障がい者日中一時支援事業(※2)・共生型サービス(※3) (延べ利用者数) 250 名	✓ 延べ 285 名 (一時・生活介護)
(3)鈴鹿市介護予防普及啓発事業 (延べ参加者数) 2,000 名	✓ 延べ 1,182 名 【再掲】
(4)介護ロボット等利活用台数 11 機種 130 台	✓ ICT：22 機種 介護ロボット：11 機種 112 台 介護機器：14 機種 【再掲】
(5)外国人介護人材雇用 14 名(職員の10%)	✓ 11 名(職員の8%) 【再掲】
(6)高齢者(65歳以上)雇用 24 名(職員の18%)	✓ 24 名(職員の17%) 【再掲】
(7)ホームページビュー数 70 万 pv	✓ 16.3 万 pv (50.6 万ページ)
(8)収支差率 +1.0%	✓ ▲2.8%

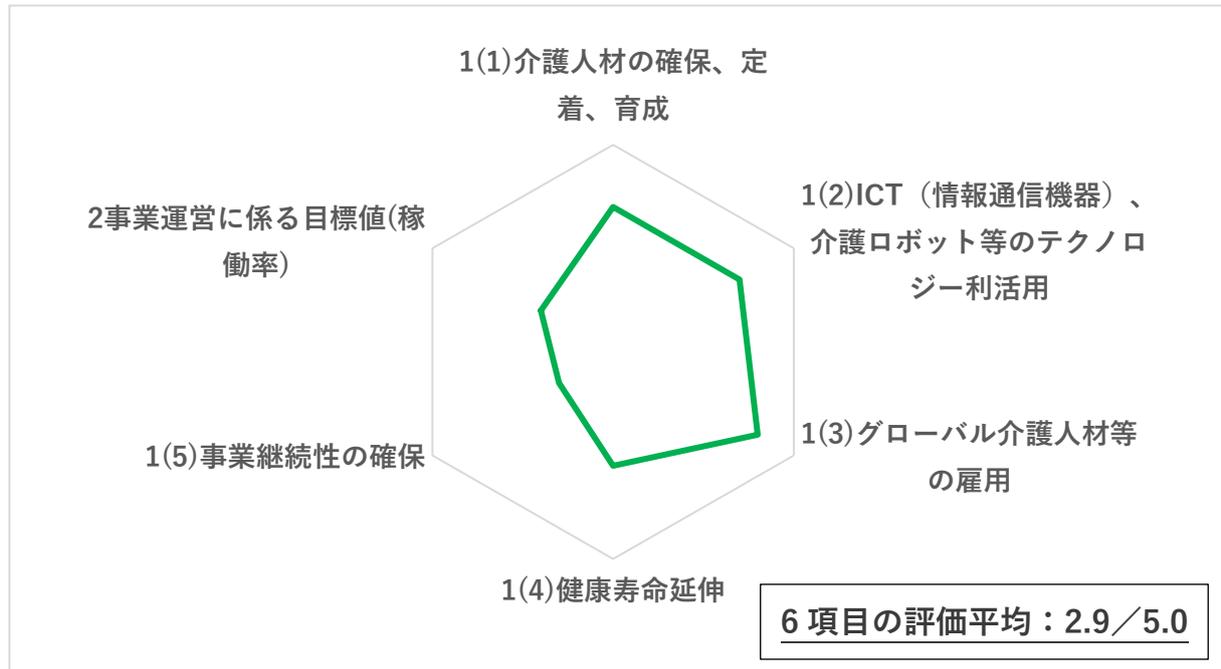
※1) 科学的介護情報システム(LIFE)：科学的に妥当性のある指標等を現場から収集、蓄積し、分析の成果を現場にフィードバックし、更なる科学的介護を推進するための Web システム (参考：厚生労働省「科学的介護情報システム (LIFE)」)

※2) 障がい者日中一時支援事業：日中において監護する者がいないため、一時的に見守り等の支援が必要な障がい者等の日中における活動の場を確保し、障がい者等の家族の就労支援及び障がい者等を日常的に介護している家族の一時的な休息を図る (出典：厚生労働省「日中一時支援事業と児童デイサービス」)

※3) 共生型サービス：介護保険サービス事業所が、障がい福祉サービスを提供しやすくする、障がい福祉サービス事業所が、介護保険サービスを提供しやすくすることを目的とした指定手続きの特例として、平成 30 年に設けられた制度です

この特例を活用し、同一事業所において、介護保険サービスと障がい福祉サービスの両方を提供することで、障がい者が 65 歳以上になっても、同一事業所を継続利用できるようになる、高齢者・障がい児者とも、利用できる事業所の選択肢が増える、「介護」や「障がい」といった枠組みにとらわれず、多様化・複雑化している福祉ニーズに臨機応変に対応することができる、地

域共生社会を推進するためのきっかけとなる、人口減少社会にあっても、地域の実情に応じたサービス提供体制整備や人材確保を行うことができるといったように、各地域で発生している課題の解決や掲げている目標の達成の一助となることが期待されています（厚生労働省「共生型サービスとは」）



IV-2. 各部署事業報告

1. 特別養護老人ホーム鈴鹿グリーンホーム

目標	『Road to 2040 Project』～サステナビリティ：事業持続の可能性	
	項目	実績（数値評価）
(1)地域住民・介護事業者・外部機関からのイメージの良さの継続（ガバナンスの構築）		自己評価：○ ✓年度内における新規入居見学・申し込み対応：45名 ✓新規入居者対応：33名 ✓その他、見学対応・営業活動実施
(2)科学的介護情報システム(LIFE)フィードバックの活用促進		自己評価：○ ✓ケアの質の指標として活用
<p>※当ホームにおける活用の一例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自施設のⅢaの利用者の割合は全国・三重県よりも高いが、中核症状を示す利用者の割合は全国・三重県と比較して自施設の方が低いという奇妙な結果となっている。 →その背景を検証するために、「現在の日付や場所等についてどの程度認識できますか」を確認したところ、「I（発語がなく、無言である）」に該当する利用者の割合は、全国・三重県と比較して自施設のほうが低い つまり認知症を有する利用者が多い状況ではあるが、職員が何とかしてコミュニケーションを取ろうとしているということではないかと考えられる ・「一人で服薬ができますか」「一人で着替えることができますか」「テレビやエアコンなどの電化製品を操作できますか」を確認したところ、やはり「I」に該当する利用者の割合も自施設の方が低かった これらの項目は、日常的に利用者本人が残存機能を活かせるように働きかけたり、積極的なコミュニケーションを実施していないと評価が難しい項目であることから、自施設では認知症を抱えられた方に対して、積極的に自立支援介護が実践されているのではないかと考えることができた (LIFE「科学的介護推進体制加算にかかる評価（R7.1サービス提供分）」を参照ください) 		
		✓厚生労働省ホームページ「科学的介護情報システムについて 3 LIFE の導入、入力と評価方法、利活用のマニュアル」 “科学的介護情報システム（LIFE）第1回・第2回説明会”において、当特別養護老人ホームの事例が掲載
(3)AI カメラシステム増設の検討及び既存機器の運用		自己評価：○ ✓Voxela 社 VCare10 台設置
(4)医療連携の継続実施		△ ✓ご逝去：計 32 名 ✓看取り対応：22 名 全体のご逝去者の 68%が看取り診断受け、看取り介護計画書を作成

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本人・家族様と多職種との ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の話し合いが行えないケースもあった
(5)外国人介護人材、高年齢者の雇用促進	<p>自己評価：○</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 外国人介護人材の雇用：7名 ✓ 外国人人材比率目標：30%
(6)研究事業等への協力推進	<p>自己評価：○</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 厚生労働省 老人保健健康増進等事業「令和6年度介護サービス事業における生産性向上に資するガイドラインを活用した継続的な取組における効果に関する調査研究事業」協力
(7)入居者確保、人材確保に向けた情報発信	<p>自己評価：○</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ A棟：225本/年
(8)各種研修の開催・受講	<p>自己評価：○</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 権利擁護、身体拘束、基本介護技術 OJT チェックリスト、事業継続計画 (BCP)、シュミレーション訓練、消防訓練 →2回/年各ユニットで実施 ✓ 食中毒、普通救命訓練 →1回/年実施 ✓ 口腔衛生の管理に関する指導 →2回/月実施
(9)BPSD(※1)ケアプログラムの活用・推進	<p>自己評価：×</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 認知症チームケア推進加算未算定（認知症介護実践リーダー研修受講資格の実務年限要件を年度内に満たせなかったため） ✓ 認知症介護実践者研修修了
(10)常に変化を求め、よいものがあれば積極的に試す	<p>自己評価：○</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 生成 AI を活用した施設サービス計画書(第2表)の素案作成 →作成時間 40%程度短縮(25分→15分)
(11)稼働率の維持、向上に拘る	<p>自己評価：×</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 通年：99%以上の維持 →平均 97%のため未達成（平均欠数 2.35人/日） ✓ 認定調査：72名実施（要介護度 3.8→4.16）

	✓事業高(80床)： 446,815千円/年 ✓入居者1人当たりの収益：16千円/日
--	--

※1) BPSD (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia)：病気の進行に伴い、通常、認知機能が低下したことによる「中核症状」に加え、環境や周囲の人々との関わりの中で、感情的な反応や行動上の反応が症状として発現し、「行動・心理症状 (BPSD)」(または「周辺症状」とも言う) と呼ばれる(厚生労働省)
 周囲の人との関わりがなかで起きてくる症状を「BPSD」といいます
 BPSDは「認知症の行動と心理症状」を表す英語の「Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia」の頭文字を取ったもの
 暴言や暴力、興奮、抑うつ、不眠、昼夜逆転、幻覚、妄想、せん妄、徘徊、もの取られ妄想、弄便、失禁などはいずれも BPSD で、その人の置かれている環境や、人間関係、性格などが絡み合っただけで起きてくるため、人それぞれ表れ方が違います(出典：認知症フォーラム.com「認知症の基礎知識」)

◆生産性向上推進体制加算(※1)にかかるとの評価(R6.10)

評価項目	実績(数値評価)		差異
	事前評価	事後評価	
職員の総業務時間	182.1時間/人・月	174.6時間/人・月	4%減少
うち時間外労働時間	15.2時間/人・月	10.2時間/人・月	33%減少
年次有給休暇取得日数(R5.11-R6.10)	0.9日/人・月	1.2日/人・月	33%増加
WHO-5(※2)	0人-2人-1人-2人	0人-2人-1人-2人	悪化せず
生活・認知機能尺度(※3)	0人-2人-1人-2人	0人-2人-1人-2人	悪化せず

※1) 生産性向上推進体制加算：介護人材不足の中で、更なる介護サービスの質の向上を図るため、処遇改善や生産性向上による職場環境の改善に向けた先進的な取組を推進
 介護ロボットや ICT 等の導入後の継続的なテクノロジー活用を支援するため、見守り機器等のテクノロジーを導入し、生産性向上ガイドラインに基づいた業務改善を継続的に行うとともに、効果に関するデータ提出を行うことを評価する新たな加算が入居・滞在系サービスに設けられた(参考：厚生労働省「令和6年度介護報酬改定生産性向上推進体制加算について 生産性向上推進体制加算(I)及び(II)の解説」)
 ※2) WHO-5 (WHO Five Well-being Index)：利用者における満足度の変化に関する指標。合計点数が高い方(表中の右側の人数ほど)がコンディションがよい
 表は左から 0-6点・7-13点・14-19点・20-25点
 ※3) 生活・認知機能尺度：認知機能・生活機能に関する指標
 合計点数が高い方(表中の右側の人数ほど)がコンディションがよい
 表は左から、7-14点・15-21点・22-28点・29-35点

◆LIFE「科学的介護推進体制加算にかかるとの評価(R7.1 サービス提供分)」

※フィードバックを活用する際の注意点として、フィードバックは「ケアの答えが示されるもの」や「ケアの通知表」ではないことがあげられます。フィードバックは、ケアに携わる様々な職員が、利用者の状態や日々のケアの状況について共通の認識を持ち、改善につなげていくための「材料」となるものです。フィードバックをきっかけとして、職員間で気付きを共有することで、よりよいケアに向けた取組

につながることを期待されます。(厚生労働省「ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム(LIFE) 利活用の手引き (令和6年度介護報酬改定 対応版)」)

【自施設の傾向 (生成 AI による分析概要)】

- ▶ 要介護 4・5 の割合が 74.7%と全国 (69.2%) より高く、重度者の受け入れが多い。
- ▶ 年齢構成では 85 歳以上が 74.6%と全国 (69.3%) を上回る。
- ▶ 障がい高齢者の日常生活自立度では B1・B2 が 65.3%と全国 (57.2%) より高く、認知症高齢者では IV・M が 48.0%と全国 (21.0%) の 2 倍以上と、認知症の重度者も多い傾向にある。
- ▶ ADL 合計点は 36.7 点と全国 (27.9 点) より高く、身体機能は比較的良好である。認知機能尺度では「日付や場所の認識」で 4・5 の割合が 40.0% (全国 24.5%)、「会話での伝達」で 4・5 が 61.3% (全国 47.3%) と認知面での保持が見られるが、「一人で服薬」「着替え」では 1 の割合が全国を下回り、介助が多い様子もうかがえる。
- ▶ BMI は 18.5 未満が 26.7%と全国 (36.0%) より低く、栄養状態は比較的良好
- ▶ 口腔では「むせあり」が 18.7% (全国 26.5%)、「歯の汚れあり」20.0% (全国 32.3%) と清潔保持が行き届いているが、「義歯あり」は 48.0%と全国と同程度で、「歯肉の腫れ・出血あり」は 2.7%と良好である。

評価項目		自施設	三重県	全国	
要介護度の割合	要介護 1	0.0%	0.0%	0.0%	
	要介護 2	2.7%	1.3%	2.7%	
	要介護 3	22.7%	24.5%	27.3%	
	要介護 4	40.0%	44.1%	41.6%	
	要介護 5	34.7%	29.6%	27.6%	
年齢の割合	65 歳未満	1.3%	1.0%	0.9%	
	65 歳以上 75 歳未満	5.3%	5.3%	5.3%	
	75 歳以上 85 歳未満	18.7%	23.4%	24.6%	
	85 歳以上	74.6%	70.3%	69.3%	
障がい高齢者の日常生活自立度 (※1)	自立	0.0%	0.0%	0.0%	
	J1・J2	0.0%	1.6%	1.5%	
	A1・A2	17.4%	20.0%	22.1%	
	B1・B2	65.3%	57.0%	57.2%	
	C1・C2	17.4%	21.2%	19.0%	
認知症高齢者の日常生活自立度 (※2)	自立	4.0%	2.0%	1.5%	
	I	2.7%	5.4%	4.1%	
	II a・II b	8.0%	22.0%	21.7%	
	III a・III b	37.3%	46.9%	51.7%	
	IV・M	48.0%	23.7%	21.0%	
ADL (※3) 合計点		36.7 点	26.9 点	27.9 点	
生活・認知機能尺度 (※4)	身近なものを置いた場所を覚えていますか	1	32.0%	43.5%	43.6%
		2	22.7%	20.4%	20.9%
		3	26.7%	19.4%	20.1%
		4	9.3%	10.5%	10.0%
		5	9.3%	6.2%	5.4%

	身の回りに起こった日常的な出来事をどのくらいの期間、覚えていますか	1	41.3%	51.4%	52.6%
		2	26.7%	20.4%	21.0%
		3	8.0%	9.9%	9.6%
		4	16.0%	10.1%	10.4%
		5	8.0%	8.2%	6.3%
	現在の日付や場所等についてどの程度認識できますか	1	4.0%	8.4%	9.1%
		2	42.7%	40.8%	42.1%
		3	13.3%	23.8%	24.3%
		4	26.7%	13.5%	13.1%
		5	13.3%	13.5%	11.4%
	誰かに何かを伝えたいと思っているとき、どれくらい会話でそれを伝えることができますか	1	6.7%	9.6%	9.6%
		2	17.3%	20.7%	20.3%
		3	14.7%	22.3%	22.8%
		4	41.3%	28.4%	29.0%
		5	20.0%	19.0%	18.3%
	一人で服薬ができますか	1	52.0%	71.8%	72.7%
		2	37.3%	23.0%	22.6%
		3	0.0%	0.8%	0.9%
		4	2.7%	1.6%	1.7%
		5	8.0%	2.7%	2.0%
一人で着替えることができますか	1	22.7%	45.3%	42.8%	
	2	44.0%	37.1%	37.1%	
	3	9.3%	6.8%	7.9%	
	4	13.3%	5.1%	6.5%	
	5	10.7%	5.7%	5.5%	
テレビやエアコンなどの電化製品を操作できますか	1	32.0%	39.9%	41.2%	
	2	20.0%	26.8%	26.0%	
	3	17.3%	13.3%	13.3%	
	4	21.3%	12.7%	12.1%	
	5	9.3%	7.3%	7.4%	
BMI(※5)の分布	18.5未満		26.7%	39.3%	36.0%
	18.5以上 21.5未満		42.7%	33.1%	33.4%
	21.5以上		30.6%	27.6%	30.6%
義歯「あり」の割合			48.0%	44.8%	48.8%
むせ「あり」の割合			18.7%	27.4%	26.5%
歯の汚れ「あり」の割合			20.0%	29.0%	32.3%
歯肉の腫れ・出血「あり」の割合			2.7%	10.7%	11.0%

※フィードバックに割合等が表示されていない項目についてはグラフのメモリから推計した

※1) 障がい高齢者の日常生活自立度：寝たきり度の判定に用いる

ランクJ：生活自立、ランクA：準寝たきり、ランクB・C：寝たきり

※2) 認知症高齢者の日常生活自立度：ランクIからMまで順に、見られる症状や行動が重度と判定する

- ※3) ADL：日常生活動作 (Activities of Daily Living)
 日常生活を送るために最低限必要な日常的な動作で、「起居動作・移乗・移動・食事・更衣・排泄・入浴・整容」動作のこと (公益財団法人長寿科学振興財団「健康長寿ネット」)
- ※4) 5ほどコンディションがよい状態
- ※5) BMI (Body Mass Index)：[体重 (kg)] ÷ [身長 (m) の2乗] で算出される値
 肥満や低体重 (やせ) の判定などに用いられる (厚生労働省「e-ヘルスネット」)

2. 看護部門 (医務係)

目標	尊厳を保持しながら、高まる医療ニーズに対応していく
項目	実績 (数値評価)
(1)医療連携の強化継続 (多職種間)	自己評価：○ ✓年 600 回以上 (診察時・FAX・電話・メール等)
(2)配置医師との連携強化推進	自己評価：○ ✓ (特養・短期入所年間) 経管栄養：5 名 排尿カテーテル：8 名 人工肛門管理：3 名 血糖測定・インスリン注射：5 名 褥瘡ケア：16 名 吸痰ケア：14 名程度 計 51 名 その他処置多数 ✓配置医師指示による注射薬施行、点滴施行：483 回以上 ✓病院受診：96 回以上 (うち救急搬送 13 回) ✓その他必要な支援 特養入居者様定期健康診断、レントゲン検査、入所時検診、定期歯科検診、定期予防接種：250 名 (インフルエンザ・新型コロナウイルス：利用者・職員) ✓研修・勉強会 外部研修：9 回参加 内部研修：9 回実施
(3)利用者を主体とした看取りケアを進める	自己評価：△ ✓ (特養・併設短期を含めた年間) ご逝去者：計 33 名 (うち看取り対応者：23 名) 全体のご逝去者様 69.6% に看取り診断受け、看取り介護計画書計画を作成 ✓本人・家族様と多職種との ACP (アドバンス・ケア・プランニング) の話し合いが行えないケースもあった

<p>(4)意思決定の尊厳を保った個別的なケア推進 (5)配置医師との連携強化推進</p>	<p>自己評価：△ ✓看取り介護加算算定日数：平均21日間算定 ✓入院による看取り・治療希望者：3名 ✓急な体調不良にてご逝去：6名 ✓短期入所利用者：急変時の情報共有シート25名以上作成</p>
<p>(6)感染症予防の勉強会を行う (7)感染症予防対策の徹底と強化に努める</p>	<p>自己評価：○ ✓各会議で感染対策について発信 ✓感染症予防委員会：13回（うち1回臨時） ✓感染症対策（ゾーニング対応）：6回 ✓新型コロナウイルス2回、感染性胃腸炎2回、上気道感染1回、通常疥癬1回 上記期間の延べ感染者数：42名 ✓死者：0名 ✓クラスター：0回 ✓検査キットによる検査実施：100回以上 ✓感染まん延発生を想定した対策・シミュレーション訓練：3回</p>
<p>(8)個別性のある適切な機能訓練 (9)機能の維持・向上 (10)理学療法士による研修・勉強会開催</p>	<p>自己評価：△ ✓理学療法士による個別機能訓練実施回数：延べ3,648回以上 日々の生活リハビリ施行 ✓ADL維持等加算：ADL利得3以上 ✓各会議において理学療法士による勉強会・研修：6回</p>

3. 栄養調理部門（総務係）

目標	食べる喜び・楽しみが長く続く食支援を目指して	
	項目	実績（数値評価）
(1)継続的な栄養管理の実施		✓毎月のモニタリング：12回/年
(2)(管理)栄養士の雇用増（3名→4名）		✓4名配置継続(常勤換算2.9名)
(3)非常災害時の備蓄食品の充実		✓飲料水更新：2月実施 ✓えいようかん更新：3月実施
(4)旬の食材を使用し、季節ごとの行事食を組込んだ献立作成		✓12回/年(内、施設行事食3)
(5)(管理)栄養士のスキルアップを図る		✓施設外研修：5回 (集合型2回、オンライン3回)
(6)食事に関するレクリエーション、季節のイベント、献立表の発信		✓ホームページへの記事掲載：60回

4. ショートステイ鈴鹿グリーンホーム

目標	『Road to 2040 Project』～サステナビリティ：法人の持続の可能性～
項目	実績（数値評価）
(1)地域住民・介護事業者・外部機関からのイメージの良さの継続（ガバナンスの構築）	自己評価：○ ✓年間稼働率ほぼ100% 稼働の高さは、地域のステークホルダーから選ばれている
(2)ICT、介護ロボット等のテクノロジー活用促進の継続	自己評価：○ ✓導入ツール数に変化なし ✓導入数は100% ✓生産性向上推進体制加算（I）取得
(3)医療連携の継続実施	自己評価：△ ✓退院からの直接受入を行っている ✓月間概ね1～2件 ✓約20名/年
(4)外国人介護人材、高齢者の雇用促進	自己評価：○ ✓外国人介護人材割合：46.1% （法人内事業中、最も高い割合） ✓高齢者雇用：14.3%
(5)研究事業等への協力推進	自己評価：○ ✓厚生労働省 老人保健健康増進等事業「令和6年度介護サービス事業における生産性向上に資するガイドラインを活用した継続的な取組における効果に関する調査研究事業」協力
(6)複合的なサービス提供のためのベースを築く	自己評価：× ✓法人赤字運営のため新たな投資は難しい状況、利益確保優先
(7)常に変化を求め、よいものがあれば積極的に試す	自己評価：○ ✓経営改善に着手 ✓年間を通じていくつかのメーカーからの依頼はあるが、まだ革新的なものは存在しない状況
(8)稼働率の維持、向上に拘る	自己評価：△ ✓年間稼働率はほぼ100% 一方、ここ最近稼働が低下傾向 営業活動、サービスの充足感、主要提供地域内の利用者減少が気になる

◆生産性向上推進体制加算にかかる評価 (R6.10)

評価項目	実績 (数値評価)		差異
	事前評価	事後評価	
職員の総業務時間 うち時間外労働時間	182.1 時間/人・月 15.2 時間/人・月	174.6 時間/人・月 10.2 時間/人・月	4%減少 33%減少
年次有給休暇取得日数 (R5.11-R6.10)	0.9 日/人・月	1.2 日/人・月	33%増加
SRS-18 (※1)	2人-2人-1人-0人	3人-2人-0人-0人	
モチベーションの変化 (仕事のやりがい) (※2)	1人-1人-3人	1人-0人-4人	
モチベーションの変化 (職場の活気) (※2)	1人-1人-3人	1人-0人-4人	
タイムスタディ (日中)			
直接介護	34.5%	35.1%	
間接介護	34.7%	34.0%	
余裕時間	0.0%	0.0%	
休憩・待機・その他	31.8%	29.5%	
タイムスタディ (夜間)			
直接介護	20.5%	14.4%	
間接介護	14.4%	22.0%	
余裕時間	0.0%	0.0%	
休憩・待機・その他	65.1%	63.6%	
WHO-5	0人-2人-1人-2人	0人-2人-1人-2人	悪化せず
生活・認知機能尺度	0人-2人-1人-2人	0人-2人-1人-2人	悪化せず

※1) SRS-18 (心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)) : 介護職員の心理的負担の変化に関する指標。合計点数が低い方(表中の左側の人数ほど)がコンディションがよい
表は左から 0-7点・8-19点・20-31点・32-54点
※2) モチベーションの変化 (仕事のやりがい)、※3) モチベーションの変化 (職場の活気) : 合計点数が低い方(表中の右側の人数ほど)コンディションがよい
表は左から (-3)-(-1)点・0点・1-3点

5. ショートステイ鈴鹿グリーンホーム翠風

目標	変化に即対応！～SPECIAL なケアの展開～	
	項目	実績（数値評価）
	(1)制度・報酬への理解	自己評価：○ ✓4月～生産性向上推進体制加算Ⅰの算定
	(2)更なる業務効率化とサービスの平準化を図る	自己評価：△ ✓見守り支援機器「HitomeQ（ヒトメク）」のフィードバックを活用し業務改善：1回/月 ✓三菱総研実証事業への協力：7月～12月 ✓三重県介護現場業務改善モデル事業：9月～3月
	(3)外国人人材、介護助手（高年齢者等）の雇用	自己評価：△ ✓雇用：外国人1名、65歳以上（介護職員1名、生活援助2名） ✓GHだより投稿数：196件→114件と前年度より41.8%減
	(4)ネットワークハードディスク(NAS)、LINE、電子メールの活用で部署内、法人内の情報共有の強化	自己評価：○ ✓各種ツールを活用し、他部署と随時情報共有
	(5)研修受講	自己評価：○ ✓DWAT被災施設派遣(1名):5月 ✓DWAT振り返り研修(1名):6月 ✓ユニットリーダー研修(1名):7月～8月 ✓鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム勉強会(1名):8月 ✓GH悠々との交換研修:11月 ✓普通救命講習(2名):1月
	(6)勉強会の開催	自己評価：○ ✓ビジネスマナー研修：4回 ✓BCP（災害）：3回 ✓身体拘束適正化・権利擁護・虐待防止：3回 ✓感染症対策：2回 ✓労働衛生安全：1回
	(7)感染症発生時迅速の迅速な対応	自己評価：△ ✓4月（ノロウイルス）、12月（インフルエンザ）発生、感染対策実施
	(8)スタッフ全員で統一したコスト意識を持つ	自己評価：△

	✓ 適切な排せつ用品の選定(期間中、利用者2名を紙パンツから布パンツへの移行に成功)
(9)法人全体の利益が向上するよう営業戦略の実施	自己評価：× ✓ 医療機関への営業を実施

◆生産性向上推進体制加算にかかる評価 (R6.10)

評価項目	実績 (数値評価)		差異
	事前評価	事後評価	
職員の総業務時間	167.6 時間/人・月	163.6 時間/人・月	2%減少
うち時間外労働時間	5.7 時間/人・月	3.6 時間/人・月	37%減少
年次有給休暇取得日数 (R5.11-R6.10)	1.3 日/人・月	1.3 日/人・月	減少せず
SRS-18	1人-2人-2人-1人	5人-5人-0人-1人	
モチベーションの変化 (仕事のやりがい)	0人-0人-6人	0人-1人-10人	
モチベーションの変化 (職場の活気)	0人-0人-6人	0人-1人-10人	
タイムスタディ (日中)			
直接介護	41.0%	40.7%	
間接介護	39.0%	48.3%	
余裕時間	0.0%	0.0%	
休憩・待機・その他	20.0%	11.0%	
タイムスタディ (夜間)			
直接介護	28.4%	21.2%	
間接介護	51.7%	58.8%	
余裕時間	0.0%	10.2%	
休憩・待機・その他	19.9%	9.7%	
WHO-5	0人-2人-2人-1人	0人-0人-3人-2人	改善
生活・認知機能尺度	0人-2人-1人-2人	0人-1人-2人-2人	改善

■介護テクノロジー等の利活用状況

介護テクノロジー × グローバル介護人材

インカム
見守り支援機器の設置・調整
記録の入力
全ての見守り支援機器からの通知はスマートフォンに集約
✓ヒヤリハット記録なども作成できるようになった

介護テクノロジー × 教育活動

中学生「介護テクノロジーの体験授業」
小学生「夏休み 鈴鹿市ワークキャンプ」
看護専門学校「看護実習」
介護福祉士養成校 授業
✓小中学校生、看護専門学校・介護福祉士養成校等の学生に対し、現場職員が体験型形式で伝えている

介護テクノロジー × 腰痛防止

令和6年11月の負担軽減量（ショートステイ翠風利用者に対する入浴中の移乗介助）

リフト浴
約2.8t 軽減
軽自動車3台分！
（介護職員1人あたり約250kgの負担軽減）
✓リフト浴の使用により、月間2.8t（軽自動車約3台分）の移乗介助時の腰部負担を軽減 R6.11実績

介護テクノロジー × エバンジェリスト活動

✓他施設・事業所等からの見学受け入れ、企業向けの介護保険セミナーを開催
【見学受入実績】
R4年度 7件
R5年度 8件
R6年度 11件（R7.1.31現在）

主な成果（R7.1.20現在）

介護職員離職者数（R5.5以降） 0%	産休・育休等からの復職率 100%	介護福祉士保有率 82%
総業務時間（介護職員1人・1月あたり） 167.6時間⇒ 163.6時間 4時間減	時間外労働時間（介護職員1人・1月あたり） 5.7時間⇒ 3.6時間 37%減	有給取得日数（介護職員1人・1月あたり） 1.3日⇒ 1.3日 維持
介護職員の心理的負担感の変化(1) SRS-18 0～7点 17%⇒ 45% 28%増 8～19点 33%⇒ 45% 12%増	介護職員の心理的負担感の変化(2) モチベーションの変化「仕事のやりがい」 +1～+3点 57%⇒ 82% 82% モチベーションの変化「職場の活気」 +1～+3点 29%⇒ 91% 91%	見守り支援機器の活用 ①通知対応率 6.1%⇒ 6.6% 66% ②入室回数(不要な入室減少) 12.0回⇒ 7.3回 39%減 ③滞在時間(過剰な介入の減少) 19.1分⇒ 8.5分 45%減
タイムスタディ調査 ①日中 直接介護 32.8時間 ⇒ 36.2時間 3.4時間増 ②夜間 余裕時間 0 ⇒ 8.2時間 8.2時間増	リフト浴使用による1か月の移乗介助軽減重量 2.8t 生徒・学生への教育活動 見学受け入れ 4回 11回	【今後の目標設定】 ①地域に対して介護テクノロジーに関する働きかけを推進する（県内企業とのコラボを含む） ②介護テクノロジーを持った人材を輩出する ③介護テクノロジーを活用した介護現場の横展開を図る ④介護テクノロジー先進県「三重県」に向かって尽力する

6. デイサービスセンター鈴鹿グリーンホーム

目標	からだ と 気持ちの Quality 向上	
	項目	実績 (数値評価)
(1)平均利用者数 50 名		✓ 年間平均利用者数：37.8 人 ✓ R6.4：33.4 人⇒R7.3：40.3 人 21%増、目標 45 人 (共生型生活介護・障がい者等 日中一時支援事業を含む)
(2)新たな転倒予防方策を推進		✓ モフ測 (※1)： 延べ 2,345 人利用 ✓ GaitBEST (※2)： 延べ 2,345 人計測 ✓ e-foot (※3)：延べ 19 人使用
(3)多彩なメニュー (アクティビティ) の提供		✓ 音楽会 139 回 ✓ 慰問 22 回 ✓ お菓子作り 24 回 ✓ 折り紙教室 12 回 ✓ 工作 54 回 ✓ 裁縫・編み物 44 回 ✓ 創作活動 37 回 ✓ 麺パーティ 6 月・3 月 ✓ 夏祭り 8 月 ✓ 運動会 10 月 ✓ 焼き芋・焼きサンマ 11 月
(4)家族懇談会の開催		✓ 令和 6 年 11 月 4 日(火)開催 「デジタルをフル活用した機能 回復訓練と各地域でのフレイル 予防事業」について報告
(5)PR 活動、ホームページ発信		✓ 182 本(アクティビティ・献立含 む)
(6)研究大会等へのエントリー		✓ 能登半島地震の影響により応募 予定の研究大会の開催は見送り となった ✓ 全国老人福祉施設大会・研究会 議 in 滋賀にエントリーするも選 考漏れとなった
(7)職員会議の開催		全 12 回開催(毎月 10 日)

※1) モフ測：被験者の太ももに装着したウェアラブル端末により、TUG などの各動作のタイムを自動で測定することができる機器。測定結果は見やすいレポートの出力が可能 (<https://jp.moff.mobi/>)

※2) GaitBEST：4 メートルの歩行を測定することで、速度や歩幅などの歩行に関する様々なデータが得られる歩行分析ソフトウェア (<https://www.longgood.com.tw/>)

※3) e-foot：歩行筋サポートギア。骨格筋にそって配置された前後左右のゴムが収縮することで、

歩行の際に使っている筋肉をサポート、足が軽く感じ、歩きやすくなる
(<https://www.futto.jp/>)

◆LIFE「科学的介護推進体制加算にかかる評価（R7.1 サービス提供分）」

【自事業所の傾向（生成 AI による分析概要）】

- ▶ 要介護 1・2 の利用者が 68.7% と多く、比較的軽度の方が中心です。
- ▶ 年齢構成は 85 歳以上が 59.4% で全国と同程度
- ▶ 障がい高齢者の日常生活自立度では A1・A2 が 50.0% と最も多く、B1・B2 も 26.1% とやや高めです。
- ▶ 認知症高齢者の日常生活自立度では II a・II b が 42.7% と中心ですが、III 以上の中重度者が 30.2% を占めます。
- ▶ ADL 合計点は 82.3 点と全国平均を大きく上回り、身体的自立度が高い傾向が見られます。
- ▶ 生活・認知機能では「日付や場所の認識」「会話の伝達」「着替え」「電化製品の操作」などの項目で 5 の割合が非常に高く、認知・生活機能とも良好です。
- ▶ BMI は 21.5 以上が 53.1% と栄養状態は良好で、歯の汚れや歯肉の出血の割合が低く、口腔ケアも行き届いています。

評価項目		自事業所	三重県	全国	
要介護度の割合	要介護 1	42.7%	41.6%	39.5%	
	要介護 2	26.0%	27.4%	30.0%	
	要介護 3	14.6%	16.0%	16.0%	
	要介護 4	14.6%	9.8%	9.3%	
	要介護 5	1.0%	5.2%	4.5%	
年齢の割合	65 歳未満	1.9%	1.3%	1.0%	
	65 歳以上 75 歳未満	11.6%	7.6%	7.7%	
	75 歳以上 85 歳未満	27.1%	31.7%	33.4%	
	85 歳以上	59.4%	59.4%	57.9%	
障がい高齢者の日常生活自立度	自立	2.3%	3.0%	4.5%	
	J1・J2	18.7%	27.5%	31.4%	
	A1・A2	50.0%	50.5%	48.6%	
	B1・B2	26.1%	15.6%	12.9%	
	C1・C2	2.9%	3.4%	2.6%	
認知症高齢者の日常生活自立度	自立	8.3%	16.6%	16.1%	
	I	18.8%	25.5%	25.7%	
	II a・II b	42.7%	40.9%	42.6%	
	III a・III b	21.0%	13.2%	12.6%	
	IV・M	9.2%	3.8%	3.0%	
ADL 合計点		82.3 点	71.8 点	74.3 点	
生活・認知機能尺度	身近なものを置いた場所を覚えていますか	1	7.4%	10.7%	10.0%
		2	16.0%	12.6%	12.4%
		3	17.0%	26.4%	27.2%
		4	20.2%	30.1%	30.1%

		5	39.4%	20.2%	20.3%
身の回りに起こった 日常的な出来事をどの くらいの期間、覚えて いますか	1	14.9%	14.9%	14.3%	
	2	8.5%	13.8%	13.3%	
	3	11.7%	14.1%	14.1%	
	4	38.3%	27.8%	27.4%	
	5	26.6%	29.3%	30.9%	
現在の日付や場所等 についてどの程度認識 できますか	1	0.0%	0.9%	1.1%	
	2	12.8%	11.3%	10.8%	
	3	8.5%	13.3%	14.3%	
	4	18.1%	30.7%	30.4%	
	5	60.6%	43.8%	43.4%	
誰かに何かを伝えたい と思っているとき、 どれくらい会話でそれ を伝えることができますか	1	4.4%	0.7%	1.0%	
	2	2.0%	4.1%	4.0%	
	3	2.0%	9.5%	9.6%	
	4	12.8%	33.9%	33.7%	
	5	78.8%	51.8%	51.7%	
一人で服薬が できますか	1	20.2%	15.8%	12.9%	
	2	24.5%	29.4%	28.1%	
	3	0.0%	5.8%	6.7%	
	4	7.3%	22.1%	23.5%	
	5	47.9%	26.9%	28.8%	
一人で着替えること ができますか	1	3.0%	7.4%	6.4%	
	2	5.4%	14.1%	12.9%	
	3	5.4%	10.1%	10.1%	
	4	0.0%	20.5%	20.5%	
	5	86.2%	47.9%	50.1%	
テレビやエアコンな どの電化製品を操作で きますか	1	4.4%	5.6%	5.6%	
	2	12.8%	12.1%	11.6%	
	3	0.9%	15.5%	15.4%	
	4	7.4%	39.1%	37.7%	
	5	74.5%	27.7%	29.7%	
BMI の分布	18.5 未満		18.8%	19.2%	17.2%
	18.5 以上 21.5 未満		28.1%	63.3%	30.6%
	21.5 以上		53.1%	17.6%	52.2%
義歯「あり」の割合			61.1%	52.2%	53.9%
むせ「あり」の割合			17.9%	12.2%	13.6%
歯の汚れ「あり」の割合			5.3%	23.1%	24.7%
歯肉の腫れ・出血「あり」の割合			0.0%	6.1%	6.1%

※フィードバックに割合等が表示されていない項目についてはグラフのメモリから推計した

7. 鈴鹿グリーンホーム居宅介護支援事業所

目標	DX（デジタルトランスフォーメーション）の実践	
	項目	実績（数値評価）
(1)組織、組織人としての行動		自己評価：○ ✓特定事業所【II】算定 ✓ケアプラン点検に点検者として参加：1回 ✓介護支援専門員実務研修、実習生受入れ：1名 ✓ゆずりは居宅介護支援事業所様との合同研修：全員参加 ✓自立支援型地域ケア会議に参加：2名2事例 ✓地域ケア会議に参加：1名 ✓新人と利用者宅等に同行訪問しインテークから給付管理までの流れについて指導2名に対して3か月程度、その後必要な助言・指導 ✓法人デイサービス、ショートステイへの利用者の紹介 ✓その都度必要な助言
(2)介護保険制度、介護報酬体系に沿ったサービスの提供		自己評価：○ ✓R6.4月から自事業所で介護予防居宅介護支援開始、R7.3月末までに39名、受託39件担当 ✓特養認定調査への協力：R6.4月認定切れ分から延べ15件、R6.9月から月2件 ✓事業所自己評価5名実施 ✓事業所内勉強会4回実施 <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防支援、自事業所との契約や必要な手続き ・運営指導のポイント、ケアマネジメントの流れ、ケアプランチェックの項目 ・ファイリング、届け出と書類作成 ・加算の算定要件、2024年度の変更点について、給付管理と請求業務について確認 全員出席

<p>(3)テクノロジーを活用したケアマネジメントの実践 (遠隔操作も含む)</p>	<p>自己評価：○ ✓テレワーク 延べ 11 日/5 名 ✓ノート PC へ変更、スマートフォン の活用、e メールや LINEWORKS を用いて法人内他 部署との連絡、他事業所や機関 と連絡、Zoom 等を活用し会議 や研修への参加</p>
<p>(4)LIFE への理解・活用</p>	<p>自己評価：△ ✓システムが変わってから取組中 断</p>
<p>(5)ワークライフバランス(仕事と家庭の両立)等</p>	<p>自己評価：△ ✓ノー残業デイについて、週 1 回 実施を目標にしていたが、多忙 により計画的に行うことができ なかった</p>
<p>(6)積極的な情報発信</p>	<p>自己評価：× ✓グリーンホームだより 9 件</p>
<p>(7) (主任)介護支援専門員資格の更新に掛かる研修</p>	<p>✓該当者なし</p>
<p>(8) スキルアップ等にかかる研修</p>	<p>自己評価：○ ✓認知種サポート医フォローアッ プ研修認知症の精神科入院治 療：3 名(11 月 13 日) ✓生活習慣病研修 脳梗塞 三重県 立総合医療センター：2 名(11 月 15 日) ✓口腔衛生管理研修会：1 名(1 月 27 日)</p>
<p>(9) 個人目標に沿った研修</p>	<p>自己評価：○ ✓行政による災害時の住民避難の 流れ 三重県社会福祉士会鈴鹿 支部 Zoom (8 月 21 日) ✓押さえておきたい運営指導のポ イント 第一法規出版：1 名(10 月 25 日) ✓多職種でかかわる介護とケアマ ネジメント鈴鹿医療科学大学白 子キャンパス：1 名(2 月 6 日) ✓三重県難病研修会 Zoom：1 名 (2 月 13 日) ✓在宅医療介護における事業継続 計画について 鈴鹿市文化会館 さつきホール：1 名(2 月 21 日)</p>

8. 鈴鹿市介護予防普及啓発事業（出前教室・WEB 教室）

目標	参加者数増・開催エリア(サロン)拡大	
	項目	実績（数値評価）
	(1) 鈴鹿市介護予防普及啓発事業（出前教室） （フレイル※）予防	✓ サロン数：13 箇所 ✓ 体力測定：39 回（アプリとウェアラブル端末使用） ✓ オンライン教室：38 回（Zoom 使用） ✓ デイサービス機能訓練室の開放：21 回 ✓ 開催回数：98 回 ✓ 延べ参加人数：1,130 名
	(2) 鈴鹿市介護予防普及啓発事業(WEB 教室)	✓ 開催回数：20 回 ✓ 延べ参加人数：52 人
	(3) 積極的な情報発信	✓ ホームページ掲載数：45 本
	(4) 研究事業等への協力	✓ 実績なし

※）フレイルは、厚生労働省研究班の報告書では「加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態であるが、一方で適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態像」とされており、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の中間を意味します
 多くの方は、フレイルを経て要介護状態へ進むと考えられていますが、高齢者においては特にフレイルが発症しやすいことがわかっています
 高齢者が増えている現代社会において、フレイルに早く気づき、正しく介入（治療や予防）することが大切です（出典：健康長寿ネット）

9. グループホーム悠々

目標	ICT等のテクノロジーを活用し、根拠のあるケアの実践 →質の良いケアの提供へ	
項目	実績（数値評価）	
(1)ひもときシート(※1)の作成、更新	✓11名	
(2)興味・関心チェックシートの記入	✓11名	
(3)認知症高齢者の日常生活自立度(※2)評価	✓11名	
(4)長谷川式簡易知能評価スケール(※3)評価	✓11名	
(5)科学的介護推進情報システム(LIFE) (※4)へのデータ入力・Web提出	✓入力・提出：計4回、延べ36名	
(6)科学的介護推進情報システム(LIFE)のフィードバック活用	✓3月、事業所フィードバックにより事業所の傾向を確認、共有	
(7)見守り支援機器(※5)等の活用	✓aams.介護9台導入	
(8)介護ソフト、インカムの活用	✓紙→介護ソフトによる記録実施 ✓3台使用	
(9)協力医療機関、歯科医療機関との連携	✓協力医24回 ✓歯科医12回	
(10)運営推進会議(※6)参加メンバーの拡大（警察職員や消防職員への参加依頼等）	✓6回開催、延べ参加者38名	
(11)行政・研究機関等の調査やモデル事業への積極参加	✓0回	
(12)地域密着型サービス外部評価(※7)の受審	✓10月8日受審	
(13)ホームページでの事業所の運営規程の概要等の重要事項等の情報(※8)をホームページ等に掲載	✓掲載済	
(14)ホームページ等での発信・ページビュー数の増加	✓219回	
(15)家族会の開催	✓家族懇談会において事業所プレゼンを実施	
(16)認知症介護実践者研修の受講	✓1名修了	
(17)認知症介護実践リーダー研修の受講	✓2名修了	
(18)認知症ケアに関する研修	✓認知症チームケア研修3名受講	
(19)その他外部研修会の受講	✓8名受講	
(20)身体拘束適正化研修	✓延べ33名受講	
(21)高齢者の権利擁護	✓延べ22名受講	
(22)基本介護技術 OJT チェックリスト研修	✓延べ22名受講	
(23)事業継続計画（BCP）研修	✓延べ22名受講	
(24)食中毒対策研修	✓11名受講	
(25)感染症対策研修	✓延べ22名受講	
(26)災害対策（BCP シミュレーション訓練）	✓延べ22名受講	
(27)消防訓練	✓2回（計8名参加）	

※1) ひもときシート:援助者の思いこみや試行錯誤で迷路に迷い込んでいる状況から脱するために、シートのそれぞれの段階で「評価的理解」「分析的理解」「共感的理解」の考え方を学び、援助者

中心になりがちな思考を本人中心の思考（すなわち本人の気持ちにそった対応）に転換し、課題解決に導こうとするツール（出典：認知症介護研究・研修センター「ひもときネット」）

※2) 認知症高齢者の日常生活自立度：高齢者の認知症の程度を踏まえた日常生活自立度の程度を表すもの（出典：健康長寿ネット）

※3) 長谷川式簡易知能評価スケール：認知症の診断に広く用いられている評価スケール

※4) 科学的に妥当性のある指標等を現場から収集、蓄積し、分析の成果を現場にフィードバックし、更なる科学的介護を推進するためのWebシステム（参考：厚生労働省「科学的介護情報システム（LIFE）による科学的介護の推進について」）

※5) 見守り支援機器：介護施設において使用する、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた以下の様な特徴を持つ機器

- ・複数の要介護者を同時に見守ることが可能
- ・施設内各所にいる複数の介護従事者へ同時に情報共有することが可能
- ・昼夜問わず使用できる
- ・要介護者が自発的に助けを求める行動（ボタンを押す、声を出す等）から得る情報だけに依存しない
- ・要介護者がベッドから離れようとしている状態又は離れたことを検知し、介護従事者へ通報できる
- ・認知症の方の見守りプラットフォームとして、機能の拡張又は他の機器・ソフトウェアと接続ができる

（出典：介護ロボットポータルサイト「重点分野（開発対象項目）の定義」）

※6) 運営推進会議：地域密着型サービス事業所が、利用者、市職員、地域住民の代表者等に対し、提供しているサービスの内容等を明らかにすることにより、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質を確保することを目的として設置

※7) 地域密着型サービス外部評価：地域密着型サービスの評価は、事業所自らが実施する「自己評価」と評価機関が実施する「外部評価」から成りこの評価は国の基準により少なくとも年に1回は実施することが義務づけられています

「外部評価」は、第三者による外部評価の結果と、当該評価を受ける前に行った自己評価の結果を対比して両者の異同について考察した上で、外部評価の結果を踏まえて総合的な評価を行うこととし、これによって、サービスの質の評価の客観性を高め、サービスの質の改善を図ることを狙いとするものです（出典：三重県「地域密着型サービスの外部評価について」）

※8) 事業所の運営規程の概要等の重要事項等の情報：事業所の運営規程の概要等の重要事項、居室及び食堂の広さ、届出事項、特別な食事の提供に係る情報（内容及び料金等）、移動用リフト使用時の留意事項等）（厚生労働省）

◆生産性向上推進体制加算にかかる評価（R6.10）

評価項目	実績（数値評価）		差異
	事前評価	事後評価	
職員の総業務時間	176.4 時間/人・月	167.3 時間/人・月	5%減少
うち時間外労働時間	0.8 時間/人・月	0.7 時間/人・月	13%減少
年次有給休暇取得日数 (R5.11-R6.10)	1.2 日/人・月	1.5 日/人・月	25%増加
WHO-5	0人-0人-3人-2人	0人-0人-3人-2人	悪化せず
生活・認知機能尺度	0人-1人-3人-1人	0人-1人-3人-1人	悪化せず

◆LIFE「科学的介護推進体制加算にかかる評価（R7.1 サービス提供分）」

【自事業所の傾向（生成 AI による分析概要）】					
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自事業所の利用者は要介護 2・3 の割合が高く、4・5 が少ない傾向にあります。 ▶ 年齢層は 85 歳以上が 75% を占め、高齢化が進んでいます。 ▶ 障がい高齢者の日常生活自立度は A1・A2 と B1・B2 が全体で 100% を占め、C1・C2 はいません。 ▶ 認知症高齢者の日常生活自立度は III a・III b が最多で 62.5% を占め、やや進行した認知症が中心です。 ▶ ADL 合計点は 60.6 点と全国平均を上回っています。 ▶ 認知・生活機能では「覚える力」「認識力」にやや課題が見られますが、伝達や服薬、着替え等の基本動作では中程度以上の能力を保持しています。 ▶ BMI では 18.5 未満が 37.5% とやせ傾向が目立ちます。 ▶ 義歯使用率は 62.5%、むせ・歯の汚れ・歯肉トラブルはいずれも全国平均とほぼ同等ですが、歯肉の腫れや出血はやや多めです。 ▶ 全体として、高齢・中度要介護・中等度認知症の方が多く、口腔・栄養状態の管理が課題です。 					
評価項目		自事業所	三重県	全国	
要介護度の割合	要介護 1	25.0%	32.7%	22.6%	
	要介護 2	37.5%	24.9%	26.1%	
	要介護 3	25.0%	22.9%	25.4%	
	要介護 4	0.0%	11.0%	15.8%	
	要介護 5	12.5%	7.4%	9.8%	
年齢の割合	65 歳未満	0.0%	0.5%	0.5%	
	65 歳以上 75 歳未満	0.0%	2.0%	3.0%	
	75 歳以上 85 歳未満	25.0%	27.5%	24.0%	
	85 歳以上	75.0%	70.0%	72.5%	
障がい高齢者の日常生活自立度	自立	0.0%	1.5%	1.2%	
	J1・J2	0.0%	10.5%	9.7%	
	A1・A2	62.5%	65.0%	61.8%	
	B1・B2	37.5%	19.9%	23.1%	
	C1・C2	0.0%	3.0%	4.3%	
認知症高齢者の日常生活自立度	自立	0.0%	0.0%	0.0%	
	I	0.0%	3.8%	2.3%	
	II a・II b	37.5%	41.4%	36.6%	
	III a・III b	62.5%	41.3%	45.9%	
	IV・M	0.0%	13.3%	14.9%	
ADL 合計点		60.6 点	60.1 点	54.3 点	
生活・認知機能尺度	身近なものを置いた場所を覚えていますか	1	12.5%	35.6%	38.3%
		2	12.5%	27.5%	25.3%
		3	50.0%	26.0%	25.4%
		4	25.0%	8.0%	8.9%
		5	0.0%	2.8%	2.3%

	身の回りに起こった日常的な出来事をどのくらいの期間、覚えていますか	1	25.0%	50.9%	55.4%
		2	37.5%	25.4%	24.4%
		3	12.5%	10.9%	9.3%
		4	25.0%	9.9%	8.3%
		5	0.0%	3.0%	2.7%
	現在の日付や場所等についてどの程度認識できますか	1	0.0%	2.6%	4.3%
		2	25.0%	33.0%	38.0%
		3	25.0%	35.6%	34.0%
		4	25.0%	18.9%	15.4%
		5	25.0%	9.8%	8.4%
	誰かに何かを伝えたいと思っているとき、どれくらい会話でそれを伝えることができますか	1	0.0%	3.1%	3.7%
		2	0.0%	12.5%	15.8%
		3	25.0%	17.9%	19.6%
		4	50.0%	36.0%	36.7%
		5	25.0%	30.4%	24.2%
	一人で服薬ができますか	1	25.0%	57.2%	61.3%
		2	75.0%	39.9%	35.5%
		3	0.0%	0.4%	0.8%
		4	0.0%	1.2%	1.4%
		5	0.0%	1.4%	1.0%
一人で着替えることができますか	1	12.5%	17.1%	21.4%	
	2	25.0%	25.7%	28.7%	
	3	25.0%	16.0%	15.9%	
	4	37.5%	28.5%	22.7%	
	5	0.0%	12.7%	11.2%	
テレビやエアコンなどの電化製品を操作できますか	1	25.0%	32.3%	34.8%	
	2	50.0%	29.3%	28.1%	
	3	12.5%	15.1%	15.8%	
	4	0.0%	18.8%	15.8%	
	5	12.5%	4.5%	5.5%	
BMI の分布	18.5 未満		37.5%	25.2%	23.7%
	18.5 以上 21.5 未満		25.0%	37.3%	34.8%
	21.5 以上		37.5%	37.5%	41.5%
義歯「あり」の割合		62.5%	51.0%	51.4%	
むせ「あり」の割合		25.0%	24.0%	23.8%	
歯の汚れ「あり」の割合		37.5%	33.1%	37.8%	
歯肉の腫れ・出血「あり」の割合		25.0%	11.2%	11.6%	

※フィードバックに割合等が表示されていない項目についてはグラフのメモリから推計した

10. デイサービス悠々

目標	アットホームな雰囲気毎日を安心して(目標に向かって変化する)	
	項目	実績 (数値評価)
	(1)個人レクリエーション (趣味活動の推進)	✓ R5 年度 2 種類→R6 年度 3 種類
	(2)集団レクリエーション (バリエーション増)	✓ R5 年度 50 種類→R6 年度 58 種類
	(3)脳トレプリントの種類を増やす (おもちゃの脳トレ、プリントなど)	✓ R5 年度 5 種類→R6 年度 5 種類
	(4)外に出かける行事を増やす (社会参加への取組)	✓ 実施 5 回 (予定 6 回)
	(5)テーブルレイアウトの改善	✓ R5 年度 0 回→R6 年度 1 回
	(6)花を飾る	✓ R5 年度 週 1 回→R6 年度 週 1 回
	(7)認知症介護実践者研修	✓ 2 名修了、認知症加算算定
	(8)認知症ケアに関する研修	✓ 6 月・12 月 (各 7 名受講)
	(9)身体拘束適正化研修	✓ 6 月・12 月 (各 7 名受講)
	(10)高齢者の権利擁護研修	✓ 6 月・12 月 (各 7 名受講)
	(11)基本介護技術 OJT チェックリスト研修	✓ 6 月・12 月 (各 7 名受講)
	(12)事業継続計画 (BCP) 研修	✓ 6 月・12 月 (各 7 名受講)
	(13)食中毒対策研修	✓ 6 月・12 月 (各 7 名受講)
	(14)感染症対策	✓ 6 月・12 月 (各 7 名受講)
	(15)災害対策 (事業継続計画 (BCP) シミュレーション訓練)	✓ 6 月・12 月 (各 7 名受講)
	(16)消防訓練	✓ 3 月 26 日・9 月 30 日 (2 回)
	(17)医療機関との連携・随時	✓ R5 年度 1 名→R6 年度 2 名
	(18)居宅介護支援事業所との連携・情報交換	✓ R5 年度 月 1 回→R6 年度 月 2～3 回
	(19)営業スキル等に関する研修受講	✓ 運営に関する学びを優先して研修受講 (4 回)
	(20)アクティビティの充実化・増加	✓ R5 年度 6 種類→R6 年度 6 種類
	(21)地域との連携・地域訪問	✓ 1 回 (上野地区訪問) ✓ 2 回 (運営推進会議)
	(22)情報発信 (ホームページ及び SNS の活用)	✓ 192 回
	(23)ICT の活用 (介護ソフト、デジタル端末、アプリ)	✓ 介護ソフト活用 ✓ オンライン音楽会 6 回 ✓ Zoom 研修 7 回
	(24)研修受講	✓ 延べ 79 名受講
	(25)科学的介護情報システム (LIFE) データの活用	✓ 5 月・8 月・11 月・2 月提出

◆LIFE「科学的介護推進体制加算にかかる評価（R7.1 サービス提供分）」

【自事業所の傾向（生成 AI による分析概要）】					
<ul style="list-style-type: none"> ▶利用者は要介護2が最も多く（32.1%）、次いで要介護1（28.6%）、要介護5（17.9%）の割合が高く、重度者の割合がやや多い傾向です。 ▶年齢は85歳以上が60.7%と高齢化が進んでいます。 ▶障がい高齢者の自立度ではA1・A2が過半数（57.1%）を占め、C1・C2の重度も10.8%と高めです。 ▶認知症自立度ではIIa・IIbが最多（42.8%）で、IV・Mの重度も7.7%見られます。 ▶ADL合計点は53点で全国より低く、自立度に課題が見られます。 ▶認知・生活機能では日付や場所の認識が良好（5が51.9%）で、会話による意思伝達も良好（4・5が計92.6%）です。一方、服薬や着替えは自立支援の余地があります。 ▶BMIはやせ傾向（18.5未満が21.4%）、 ▶義歯使用は46.4%と全国平均より低く、むせや口腔衛生状態は良好です。 ▶総じて、高齢・中度要介護・認知機能安定だが、身体機能や栄養面に支援が必要な傾向があります。要介護が中重度の方、85歳以上の方の割合が全国・県内施設と比べて高い傾向です。 					
評価項目		自事業所	三重県	全国	
要介護度の割合	要介護1	28.6%	46.7%	45.6%	
	要介護2	32.1%	26.0%	30.9%	
	要介護3	14.3%	11.8%	13.0%	
	要介護4	7.1%	6.0%	6.0%	
	要介護5	17.9%	3.7%	2.4%	
年齢の割合	65歳未満	0.0%	1.0%	2.0%	
	65歳以上75歳未満	10.6%	9.1%	9.0%	
	75歳以上85歳未満	28.7%	35.4%	36.7%	
	85歳以上	60.7%	54.5%	52.3%	
障がい高齢者の日常生活自立度	自立	0.0%	4.8%	5.3%	
	J1・J2	7.0%	34.8%	39.7%	
	A1・A2	57.1%	46.1%	44.7%	
	B1・B2	25.1%	11.1%	8.9%	
	C1・C2	10.8%	3.2%	1.4%	
認知症高齢者の日常生活自立度	自立	3.1%	25.1%	23.7%	
	I	32.1%	25.3%	28.3%	
	IIa・IIb	42.8%	34.8%	36.8%	
	IIIa・IIIb	14.3%	11.0%	9.2%	
	IV・M	7.7%	3.8%	2.0%	
ADL合計点		53点	77.3点	80点	
生活・認知機能尺度	身近なものを置いた場所を覚えていますか	1	7.5%	10.5%	8.2%
		2	7.5%	10.3%	9.6%
		3	29.6%	23.3%	23.9%
		4	40.7%	30.7%	30.8%
		5	14.8%	25.2%	27.5%

	身の回りに起こった 日常的な出来事をどの くらいの期間、覚えて いますか	1	14.8%	13.0%	12.3%
		2	3.8%	11.7%	10.4%
		3	11.1%	12.3%	11.4%
		4	44.4%	29.6%	25.9%
		5	25.9%	33.3%	40.0%
	現在の日付や場所等 についてどの程度認識 できますか	1	0.2%	1.9%	0.5%
		2	14.8%	7.5%	8.1%
		3	3.5%	13.0%	11.8%
		4	29.6%	26.3%	26.8%
		5	51.9%	51.3%	52.8%
	誰かに何かを伝えたい と思っているとき、 どれくらい会話でそれ を伝えることができますか	1	3.7%	1.6%	0.6%
		2	3.7%	3.2%	2.7%
		3	0.0%	8.2%	7.1%
		4	55.6%	27.9%	28.7%
		5	37.0%	59.1%	60.9%
	一人で服薬が できますか	1	22.2%	11.3%	9.5%
		2	25.9%	23.1%	21.6%
		3	0.0%	5.2%	5.4%
		4	33.3%	22.0%	22.2%
		5	18.5%	38.4%	41.3%
一人で着替えること ができますか	1	7.5%	5.7%	4.0%	
	2	11.1%	9.6%	8.2%	
	3	14.8%	7.8%	8.2%	
	4	18.5%	16.7%	16.9%	
	5	48.1%	60.2%	62.7%	
テレビやエアコンな どの電化製品を操作で きますか	1	14.8%	4.5%	4.5%	
	2	11.1%	9.9%	8.1%	
	3	3.7%	12.5%	12.1%	
	4	11.1%	34.4%	37.0%	
	5	59.3%	38.7%	38.3%	
BMI の分布	18.5 未満		21.4%	16.8%	15.0%
	18.5 以上 21.5 未満		42.9%	29.4%	29.5%
	21.5 以上		35.8%	53.9%	55.5%
義歯「あり」の割合		46.4%	53.8%	55.2%	
むせ「あり」の割合		7.1%	18.4%	18.8%	
歯の汚れ「あり」の割合		3.6%	26.7%	22.9%	
歯肉の腫れ・出血「あり」の割合		3.6%	7.1%	6.0%	

※フィードバックに割合等が表示されていない項目についてはグラフのメモリから推計した

V. その他

1. 研修受講

(計 135 回、延べ 1,125 名受講)

月	外部 主催	内部 主催	テーマ	受講部署	受講者数
4 月		●	基本介護技術 OJT チェックリスト研修 (C 棟 グローバル介護人材対象)	特養係	3 名
	●		入浴介助研修	デイサービスセンター	7 名
	●		入浴介助研修	デイサービス悠々	7 名
	●		入浴介助研修	グループホーム悠々	11 名
	●		認知症研修	グループホーム悠々	11 名
	●		安全運転動画研修	全部署	127 名
	●		夜間業務負担を軽減するには!?	特養係	1 名
5 月	●		入浴介助研修	デイサービスセンター	5 名
	●		令和 6 年度三重県社会福祉法人運営 研修	総務係 デイサービスセンター	1 名 1 名
	●		人権擁護、虐待防止、身体拘束適正 化研修	デイサービスセンター	12 名
	●		緊急時対応研修	デイサービスセンター	2 名
	●		医療 DX	特養係	1 名
	●		認知症研修	グループホーム悠々	11 名
	●		ケア向上研修	グループホーム悠々	11 名
6 月		●	介護基本技術 OJT チェックリスト研修	全部署	131 名
		●	職場復帰研修	特養係	1 名
	●		三重県 DWAT 活動振り返り会	特養係	1 名
	●		感染症対策 事業継続計画 (BCP) 研 修	グループホーム悠々	11 名
	●		排泄ケア向上研修	デイサービスセンター	1 名
	●		生産性向上研修	総務係	1 名
	●		労働条件明示ルール変更による実務面 でのポイント	特養係	1 名
	●		改正労働条件の明示：要件を完全マ スター	特養係	1 名
	●		ADL 維持等加算と個別機能訓練加算 の基本的な仕組み	特養係	1 名
	●		認知症 BPSD ケアプログラムアドミニ ストレーター 勉強会	特養係	1 名
	●		事業継続計画 (BCP) 訓練 (地震)	デイサービス悠々	7 名
	●		感染症対策研修	デイサービス悠々	7 名
	●		認知症研修	グループホーム悠々	11 名
	●		リスクマネジメント勉強会	デイサービスセンター	15 名
	●		歩行介助勉強会	デイサービスセンター	2 名
	●		ブルーオーシャンセミナー	特養係	1 名
	●		経営協セミナー	特養係	1 名

	●		社保適用拡大に備えたキャリアアップ助成金の利活用	特養係	1名
	●		高齢者社員の活用事例	特養係	1名
	●		みえ DX センターセミナー	特養係	1名
	●		認知症 BPSD ケアプログラムアドバイザー勉強会	特養係	1名
7月	●		感染症対策地域連携合同カンファレンス	総務係 医務係	1名 5名
	●		テクノロジー-体感フェア	総務係	1名
	●		安全衛生のポイント	特養係	1名
	●		R6 介護現場の生産性向上に関するヒギナーセミナー	特養係	1名
	●		仕事と治療の両立支援基礎編	特養係	1名
	●		認知症 BPSD ケアプログラムアドバイザー勉強会	特養係	1名
	●		認知症研修	グループホーム悠々	11名
	●		ハラスメント研修	デイサービス悠々	7名
	●		ハラスメント研修	グループホーム悠々	11名
8月	●		セルフヘルプ-セッションマネジメント研修	特養係	1名
	●		令和6年度給食施設従事者研修会	総務係	1名
	●		令和6年度給食施設管理者研修会	総務係	1名
	●		令和6年度「野菜の日」シンポジウム	総務係	1名
	●		「ヒヤリハットの目的と意義」	デイサービスセンター	2名
	●		「高齢者の転倒予防」	デイサービスセンター	2名
	●		鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム勉強会	総務係 医務係 特養係	1名 1名 1名
	●		DX を成功する地域企業が持つべき思想	特養係	1名
	●		介護ロボット導入サイトオンラインセミナー	特養係	1名
	●		今更聞けない ICT 化と運営指導、監査	特養係	1名
	●		行政による災害時の住民避難の流れ	居宅介護支援	1名
	●		認知症チームケア推進研修	グループホーム悠々	3名
	●		認知症研修	グループホーム悠々	11名
	●		ケア向上研修	グループホーム悠々	11名
	●		法令遵守研修	デイサービス悠々	7名
	9月	●		感染症対策 事業継続計画研修	デイサービスセンター
●			第41回鈴鹿市在宅医療ケアシステム勉強会	総務係	1名
●			権利擁護に関する研修会	特養係	1名
●			認知症 BPSD ケアプログラムアドバイザー勉強会	特養係	1名
●			認知症ケア向上研修	デイサービスセンター	2名
●			ケア向上研修	グループホーム悠々	11名

	●		認知症研修	グループホーム悠々	11名
10月	●		認知症研修	グループホーム悠々	11名
	●		看取り介護に関する研修	総務係	1名
	●		ケア向上研修	グループホーム悠々	11名
	●		介護リスクマネジメント	デイサービス悠々	7名
	●		排せつケア研修	総務係	1名
	●		介護現場の生産性向上に向けた研修会及び介護ロボット、ICT機器展示会	特養係	1名
	●		2025年法改正に備える～仕事と介護の両立支援セミナー～	特養係	1名
	●		生産性向上推進体制加算への準備	特養係	1名
	●		離職に繋がるカスタマーハラスメント対策	特養係	1名
	●		認知症 BPSD ケアプログラムアドバイザー勉強会	特養係	1名
	●		食後の口腔ケア研修	デイサービスセンター	2名
	●		押さえておきたい運営指導のポイント	居宅介護支援	1名
	11月	●		みえの食フォーラム	総務係
●			全国老人福祉施設大会・研究会議	総務係	1名
●			生活習慣病研修	居宅介護支援	2名
●			高齢者施設における感染予防対策研修	居宅介護支援	5名
●			認知症サポート医フォローアップ研修 認知症の精神科入院治療	居宅介護支援	3名
●			第42回鈴鹿市在宅医療ケアシステム勉強会	総務係 医務係	1名 1名
●			両立支援等助成金（育休中等業務代替支援コース）	特養係	1名
●			認知症 BPSD ケアプログラムアドバイザー勉強会	特養係	1名
●			介護テクノロジー等活用ミーティング	グループホーム悠々	1名
●			健幸シンポジウム	デイサービスセンター	1名
●			ケア向上・苦情処理研修	デイサービス悠々	7名
●			認知症研修	グループホーム悠々	11名
12月			●	基本介護技術 OJT チェックリスト研修	全部署
	●		自然災害 事業継続計画（BCP）研修	総務係 グループホーム悠々	1名 1名
	●		SDGs 研修	総務係	2名
	●		認知症 BPSD ケアプログラムアドバイザー勉強会	特養係	1名
	●		感染症対策、人権擁護・虐待防止、身体拘束の適正化研修	デイサービスセンター	15名
	●		認知症研修	グループホーム悠々	11名
	●		高齢者虐待防止、身体拘束適正化に関する研修	グループホーム悠々	11名

1月	●		介護人材の効果的・効率的活用推進研修	総務係	1名
	●		口腔衛生管理研修	総務係 特養係	2名 5名
	●		リーダーシップと経営理念で進める職場環境改善	特養係	1名
	●		5年後の働き方～定年延長と同一労働同一賃金	特養係	1名
	●		認知症 BPSD ケアプログラムアドミニストレーター勉強会	特養係	1名
	●		全国介護ポットフォーラム	特養係	1名
	●		口腔衛生管理研修会	居宅介護支援	1名
	●		緊急時対応に関する研修	グループホーム悠々	10名
	●		令和6年度医療機関向け新興感染症等対応力強化研修	総務係 医務係	1名 1名
	●		認知症研修	グループホーム悠々	10名
2月	●		BCP策定後の研修及び訓練に関するセミナー	総務係 デザイナーズ悠々	1名 1名
	●		多職種でかかわる介護とケアマネジメント研修	総務係 居宅介護支援	1名 1名
	●		三重県難病研修会	居宅介護支援	1名
	●		ゆずりは居宅介護支援事業所様との合同研修	居宅介護支援	6名
	●		在宅医療介護における事業継続計画について	居宅介護支援	1名
	●		普通救命講習	全部署	17名
	●		「動き出しは本人から」	総務係	1名
	●		介護の未来を作る！生産性向上と働きがいのある職場づくり	特養係	1名
	●		在宅介護におけるポット介護機器の活用／ポット介護機器、ICTの効果的な活用について	特養係	1名
	●		2025年改正育児・介護休業法のポイント解説	特養係	1名
	●		介護保険に関する研修	グループホーム悠々	10名
	●		認知症研修	グループホーム悠々	10名
3月	●		労働災害防止（転倒・腰痛防止）のための研修	全部署	122名
	●		科学的介護情報システム（LIFE）第2回説明会	総務係 デザイナーズ悠々	1名 1名
	●		感染症対策地域連携合同カンファレンス	総務係 医務係 グループホーム悠々	1名 7名 1名
	●		「高齢者施設の栄養ケア革新～入居時から退院後までを支える新しい食事提供	総務係	1名

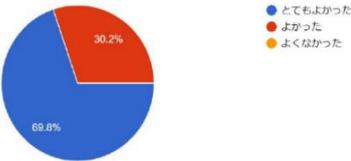
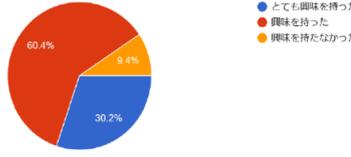
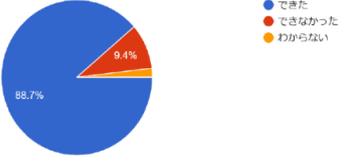
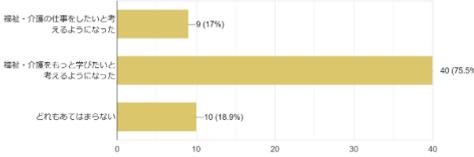
		の形～」「美味しいだけではない手作り完調品～自由なアレンジで施設色に染まる、一步先の食事提供～」		
●		大変革 27 年改定のゆくえ！介護事業所の生産性向上、DX 推進	特養係	1 名
●		ブルーソリューションセミナー (AI)	特養係	1 名
●		権限委譲で組織を強くする！エンパワメントの実践戦略	特養係	1 名
●		ロボット介護機器開発等推進事業	特養係	1 名
●		介護現場における生産性向上推進フォーラム	特養係	1 名
●		安全運転研修	全部署	122 名
●		認知症研修	グループホーム悠々	10 名

2. 外部との連携等

(75 回連携)

月	連携等の相手		内容等
4 月	Humetrics (台湾)	説明 試用 意見交換	マット系見守り支援機器 iCue SmartMat
	中日新聞社	取材	三重県に「介護生産性向上総合支援センター (仮称)」が設置されるにあたり、介護ロボットの現場活用の実際について
	富士フイルムビシネスソリューションジャパン株式会社 三重支社 (四日市市)	視察	介護ロボットの現場活用について
	株式会社コミュニケーション科学研究所 (東京都)	調査報告 見学	CI (コホレーションアイデンティティ)
	株式会社ブルーソリューションシステム (静岡県)	意見交換 見学	介護ソフト BlueOceanSystem
5 月	社会福祉法人欣寿会 (山梨県)	見学	ICT・介護ロボット
	Humetrics (台湾)	意見交換	マット系見守り支援機器 iCue SmartMat
	九州工業大学大学院 生命体工学研究科 (福岡県) 株式会社ジェネク (愛知県)	視察 インタビュー	装着型移乗支援機器 J-PAS fleairy の現場活用状況
	Voxela.inc (米国)	意見交換	AI カメラシステム VCare
	日本赤十字豊田看護大学大学院 (愛知県)	回答	ベトナム人が行う口腔ケア実施時の誤嚥のリスクを低減する実践と関連要因調査
	鈴鹿市認知症初期集中支援チーム	見学 意見交換	ICT・介護ロボット
6 月	鈴鹿市 桜島地区民生委員	見学	機能訓練の状況等レール予防、介護ロボット
	いなべ市 財団法人三重県産業支援センター(津市)	協力	高齢者デジタルライフ事業
	岡山県立大学大学院 (岡山県)	回答	特別養護老人ホームにおける看護師の看護実践自己効力感に関する調査

	金沢医科大学看護学部（石川県）	回答	入浴時時の感染症予防対策に関する実態調査
	昭和女子大学 人間社会学部福祉社会学科（東京都）	回答	外国人介護人材への重層的業務マネジメント体制の構築へ向けた実態調査
	同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学科 学生（京都府）	インタビュー	卒業研究に関する外国人介護福祉士候補者へのインタビュー
7月	老人保健施設好日苑（山口県）	見学	ICT・介護ロボット
	特別養護老人ホーム国津園（名張市）	見学	IT・ICT・介護ロボット
	社会福祉法人ひだまり（滋賀県）	見学	IT・ICT・介護ロボット
	株式会社ワール（京都府）	ヒアリング	介護向け衣類等に関する実態把握
	シルバー産業新聞社（東京都）	取材	生産性向上推進体制加算
8月	未踏アドバンス事業 2024年度実施プロジェクトチーム（東京医科歯科大学、NTTコミュニケーションズ、東京大学大学院）（東京都）	実証協力	未踏アドバンス事業（独立行政法人情報処理推進機構事業）「介護者が効果的に口腔ケア教育を学ぶことのできるシステム開発、質の高い口腔ケアの普及」
	立命館大学産業社会学部（京都府）	回答	介護職場における組織変革と業務改善に関するアンケート
	ドクターメイト株式会社（東京都）	ヒアリング	医療・介護連携について
	医療法人愛生館（愛知県）	見学	ICT、介護ロボット、LIFE
	人口減少社会における介護人材の確保に向けた民間版審議会（東京都）	参画	審議会構成員
	一般社団法人日本在宅ケア学会（東京都）共催：鎌倉市	登壇報告	第29回日本在宅ケア学会学術集会 シンポジウム「②在宅ケアの効果を評価する」
	三重県 医療保健部	選定	令和6年度三重県介護現場業務改善モデル事業所
9月	鈴鹿市立鈴峰中学校	受入	職場体験学習
	厚生労働省 株式会社三菱総合研究所（東京都）	当ホームの事例紹介	科学的介護情報システム（LIFE）第1回説明会
	三重県 医療保健部	回答	令和6年度特定行為に係る看護師の研修制度の実態調査
10月	医療法人愛生館（愛知県）	講演	愛生館学術大会（LIFE）
	社会福祉法人恵心会（鹿児島県）	見学	ICT・介護ロボット
	富士フイルムビシネスソリューションジャパン株式会社三重支店（四日市市）	講演	企業様向け介護保険セミナー
	社会福祉法人JAいずも福祉会（島根県）	見学	ICT・介護ロボット
	高齢者総合福祉施設三和荘（熊本県）	意見交換	LIFE（電子メールにて）
	国際医療福祉大学（東京都）	講義	社会福祉運営管理論
	熊本県老人福祉施設協議会（熊本県）	講演	LIFE 研修会
ai6株式会社（東京都） 株式会社B Brid（東京都）	モニタ協力依頼	見守りWi-Fiセンサー AiCarePro	
11月	社会福祉法人三重県社会福祉協議会（津市）	動画公開	みえ働きやすい介護職場取組宣言

	日経ヘルスケア（東京都）	取材	居宅介護支援における生産性向上の取り組みについて
	石川県立大学 大学院看護学研究科（石川県）	回答	介護保険施設における褥瘡ケアの実態調査
	岡山県老人福祉施設協議会 美作地区老人福祉施設協議会（岡山県）	講演	LIFE 研修会
	社会福祉法人三重県社会福祉協議会【三重県委託事業】（津市）	参画	みえ福祉・介護フェア2024【三重県老人福祉施設協会員として、ICT・介護ロボット展示体験ブースを担当】
	社会福祉法人清心会（岐阜県）	見学	ICT・介護ロボット
	石薬師地区明るいまちづくり協議会 ふれ愛フェスティバル実行委員会（鈴鹿市）	参画	栄養相談コーナーを担当
	厚生労働省	被表彰	令和6年度介護職員の働きやすい職場環境づくり厚生労働大臣表彰 奨励賞表彰状伝達式（於：三重県庁）
	社会福祉法人三重県社会福祉協議会（津市） 四日市市立西笹川中学校	講義	三重県 福祉・介護の魅力発信事業 仕事学習セミナー 介護テクノロジーの体験型授業
	<p>Q1 今日の満足度 53件の回答</p>  <p>とてもよかった、よかった 100%</p> <p>Q2 福祉・介護の仕事について、興味を持つようになりましたか。 53件の回答</p>  <p>とても興味を持った+興味を持った 90.6%</p> <p>Q3 福祉・介護の仕事の特徴や内容を理解できましたか。 53件の回答</p>  <p>できた 88.7%</p> <p>Q4 今後について当てはまるものを選択してください（複数選択可） 53件の回答</p>  <p>介護・福祉の仕事をしたと考えようになった+介護をもっと学びたいと考えようになった 81.1%</p>		
	ショートステイつなぐ（静岡県）	見学	ICT・介護ロボット
	東京農工大学大学院工学府（東京都）	回答	介護ロボットの開発・導入に関する研究アンケート調査
12月	特別養護老人ホーム鈴鹿香寿苑（鈴鹿市）	見学	ICT・介護ロボット
	株式会社ジェイテクト アクティブライフ事業部（愛知県）	協力	介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業
	社会福祉法人三重県社会福祉協議会（津市）	講演	福祉・介護のソフト説明会（於：皇學館大学（伊勢市））

	マニテク医療福祉大学校（四日市市）	参画	オープンキャンパス（介護ロボット体験）
	徳島県老人福祉施設協議会（徳島県）	講演	LIFE 研修会
	SOMPO ホールディングス株式会社（東京都）	回答	介護施設の運営に関する調査
	三重電子株式会社（明和町）	意見交換	マット系見守り支援機器＋体重測定装置 CarnaCare
	特別養護老人ホーム真寿園（長野県） （&ConsultingFirm 沖本代表（静岡県）を通じて）	意見交換	職員の介護技術教育について（メールにて）
	株式会社日本医療企画（東京都）	執筆 掲載	介護ビジョンアップデートする介護経営 Ver.2（2025.1月号）
1月	マニテク医療福祉大学校（四日市市）	講義	介護 ICT（1年生・全10時間）
	三重県老人福祉施設協会（津市）	講義	在宅部会 LIFE 研修会
	富士フイルムビシネスソリューションジャパン株式会社三重支社（四日市市）	講演	介護福祉業向けフェア
	IL・アール・アイ リサーチソシエツ株式会社（東京都）	回答	令和6年度 科学的介護に向けた調査及び質の向上支援等事業 ヒアリング調査
2月	株式会社ワイスマン（岩手県） 株式会社日本医療企画（東京都）	講演	LIFE フィードバックセミナー
	IL・アール・アイ リサーチソシエツ株式会社（東京都）	ヒアリング	ケアラウンダー連携の更なる活用に向けた調査研究
3月	社会福祉法人昭徳会（愛知県）	見学	ICT・介護ロボット・LIFE
	公益社団法人全国老人福祉施設協議会（東京都）	講演	科学的介護情報システム（LIFE）研修会
	みえ生産性向上支援センター（津市）	登壇	介護現場における生産性向上事例発表会
	厚生労働省 株式会社三菱総合研究所（東京都）	当ホームの事例紹介	科学的介護情報システム（LIFE）第2回説明会
	マニテク医療福祉大学校（四日市市）	参画	介護ロボット・生産性向上（卒業生等対象）
	一般社団法人日本在宅ケア学会（東京都）	執筆 掲載	日本在宅ケア学会誌 Vol.28～在宅ケアの効果进行评估する 介護サービスにおける科学的介護情報システム（LIFE）の活用実践例～
	東海大学医学部 基礎診療学系 医療倫理学領域（神奈川県）	回答	新型コロナウイルスパンデミックにおける特別養護老人ホームでの医療アクセスについてのアンケート調査
	みえ生産性向上支援センター（津市）	掲載	令和6年度事業 介護事業所における生産性向上への取組 好事例集
	高齢者住宅新聞社（東京都）	掲載	新 LIFE 事業所絞り込みやすく 利用者と情報比較